国有林と観光産業について

竹富町長　川満　栄長

本町は、八重山諸島の南、東シナ海に浮かぶ大小１６の島々からなる日本最南端の町であり、原生状態に近い亜熱帯性常緑広葉樹林やマングローブ林など貴重で豊かな自然を持ち、沖縄本島に次いで県下２番目に大きい島「西表島」を有し、国有林は島の８２％を占めております。

近年、エコツアー体験を求める観光客により、西表島に訪れる観光客数は４０万人超と緩やかに増加傾向にあり、新石垣空港の開港（２０１６年）に伴い更なる増加が予測されております。

観光産業は、西表島をはじめ竹富町内各島々の主要産業であり、自然環境資源の保全と同様に、重要な政策課題としてその振興に対しさまざまな取り組みが行われている一方で、自然環境を利用した観光形態の中には、その保護・保全対策の取り組みが不充分と思われる実態もあります。

現在、有数の観光名所である西表島西部のヒナイ川河口からピナイサーラの滝までの国有林野において、町では森林管理署より使用許可を受け、入林制限を図るためカヌー組合と覚書を締結しておりますが、組合員数もＨ１４年の１５業者から現在は３３業者と増加しており、一日当たりのお客さん人数を設け組合自主ルールで最大１４名としております。しかし、まともに稼働するとガイド含んで５００人超の利用となり、特に利用の多いカヤック係留ヤード乗降地での踏圧による土壌硬化は深刻な問題を浮き彫りにし、そこに生息する植物等への被害状況が見受けられるようになってきております。

これからも本町の貴重な財産である自然環境資源の保全と観光産業の両立を目指し、入域観光者増加による環境への負荷を最小限にとどめるため、環境エリアの利活用時における入域観光客の許容制限、持続的な自然環境資源の活用を行うためのルール作り等が必要であると認識しており、今後も各関係機関と意見交換をしながら、町内国有林野を活用した観光産業等の発展に努力していきたいと思います。